

第13回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会での主な意見

1 地元企業の人手不足感・景況感

- 会員へのヒアリングで、あらゆる業界から、人手不足と人件費の高騰、売り上げや販売先の減少などで経営環境が非常に厳しくなっているという意見が数多く寄せられた。また、先行きが見えないために、後継者等が育たず、廃業を検討せざるを得ないという意見も出ている。
- 企業はゼロ金利融資や制度融資、各種補助金を有効に活用しているので、資金繰りは概ね安定しているという状況だと認識しているが、今後返済が始まり、コロナ禍の環境が変わらなければ、また厳しくなるところも出てくるかもしれないので、金融機関としてしっかりとフォローしていきたい。
- 企業の後継者不足については、金融機関が連携して、M&Aなど双方のメリットとなるようなフォローを行う必要があると思っている。
- 新型コロナの感染症により、パート、有期派遣等の雇用形態やフリーランスで働く方、女性 1 人親家族や外国人労働者、アルバイトで生計を立てている学生など、より弱い立場にある方々ほど深刻な影響を受けている。

2 学生の地元就職

- 北九州市立大学では、地域に対する愛着を持ち、地域の企業を知ってもらうための地域科目を作っている。受講後のアンケートでは、北九州に対する愛着や北九州での就職を希望する割合が上がっており、北九州市に住み、街の中で活動していることが影響していると考えている。
- コロナ禍で就職活動の形態がかなり変わってきている。オンライン面接が多くなっており、旅費を払って行かなくても、関西や首都圏の企業の面接を受けることができるようになった。
- 学生と意見交換をすると、北九州市に対して、親しみを持っている学生が年々増えていると感じている。物価の安さや交通の便の良さ、住みやすさにより、北九州市に魅力を感じているという印象がある。
- 北九州市からの地元就職促進に向けた助成金を活用し、市内企業ガイドブックを作成して学生に配布したり、地元企業に就職したOBを招いての座談会を開いたりして、地元就職を進めている。市内への就職率向上につながっている。
- 活性化協議会では「地域産業人材の育成フォーラム」という取組を行っており、この中で、大学生低学年のインターンシップを実施している。企業にとっては、一年生から自社を知ってもらういい機会になり、学生にとっても、これから学校で学ぶことの動機付けにもなっている。

3 シビックプライドの醸成・情報発信

- 北九州市は悪いイメージが先行しているが、実際に食・住、周囲の環境は、非常に素晴らしいものがある。市民がもっと市の魅力を知り、市民一体となって、北九州市の良いところを宣伝することが大事。
- 北九州市は規模的にもほどよく、特に政令市の中で一番子育てがしやすいという点、特に病院が多いので、現在、コロナ禍で医療に対する関心が高まっている中、安心な街をPRしていくと、非常に響くのでは。
- 北九州の高校を卒業して、東京の大学や大阪などの他都市の大学に行っている人への働きかけも非常に大事だと思う。
- インドネシアのスラバヤで、北九州市環境局と北九州市の地元企業が協力して、リサイクル工場をつくっている。そこで大人が働けるようになると、非常に劣悪な環境で暮らしていた子供たちが学校に行くことができるようになった。こういった「まさにSDGS」といった取組みを小学生、中学生のうちから伝えていくことで、この街に誇りを持ち、シビックプライドの醸成に繋がっていくと思う。
- 若い世代にこの街に誇りを持ってもらうことが重要。青年会議所では学生と一緒に事業を実施しているので、シビックプライドの醸成に努めていきたい。
- 例えば洋上風力発電では、基礎の周りが漁礁となって魚が集まるなど、身近な情報の方が市民には届きやすい。もっと市民を情報発信の人材として活用すべき。

4 企業のDX・デジタル人材育成

- DX化に関して、企業の一番の不安はデジタル人材の育成。企業内の人材育成を迅速に進める必要がある。実際のケースでは、IoT化を進めている人材は技術系に限らず、女性のパート、事務職の方だったりする。
- 今まで手をつけられなかったサービス業についても、AIを活用することはできるので、導入するための人材育成も含めて協力したい。
- デジタル人材育成について、社会人と並行して重要なのは、小学校・中学校。若年層からの教育で、全員がデジタルに慣れるという社会を北九州市で作ることができればいいと思う。
- 大学が企業と連携して、企業で実際に使われているツールや技術などに接する機会を持つことは大変重要。市内のIT関連の企業とともに、人材を育成するようなスキームを強化していきたい。
- 学生が専門的な知識スキルを身につけることができるよう有給インターンシップの取組を行っており、市内企業に協力してもらっている。それがきっかけで市内企業への就職希望者や、実際の就職が増えている。具体的な事例を通して、大学が企業と繋がっていくことが必要。
- 社会人教育に関して、大学でプログラムを作るだけでは、企業にとって有効なのか分からないので、地元企業からスムーズにフィードバックをもらえるような連携が必要だと思っている。市の協力を得ながら加速したい。

- 北九州市の中で、民と官が連携してDXを一步先に進めるための教育が非常に大事だと思っている。IT企業誘致についても、人材がいる場所に企業は立地するので、ITを志した学生の数を増やす必要がある。
- 文科省補助事業を活用し、北九州市立大学と北九州市で、20～30歳代の失業者や非正規雇用労働者を対象としたリカレント教育が行われている。本事業について、大いに期待し、注目しているところ。

5 ESG投資、中小企業のSDGsに対する意識

- この2年間で、SDGsの意識が非常に高まっている。北九州市は世界的なサプライチェーンに関わっている企業が多いので、特に高まっていると感じる。
- SDGsに対する意識が高まっていることは間違いないが、中小企業に限るとばらつきがある。必要性は理解しているが、自分の事業に置き換えると何をどうやってやったらいいか分からない、という企業がまだいる。こういった企業に行動変革を起こすことが一番大変。意識ある企業はSDGsクラブなどに参加するが、本当に働きかけたい企業が漏れてしまっているのではないかと感じる。

6 その他

- 北九州市の洋上風力関連産業において、新しい雇用の需要も発生するというところで、産業の転換や先行きが見えない中小企業の方々の後押しになればと期待している。
- 一過性のものではなく、恒久的に地域が発展するような事業が必要。響灘の洋上風力発電、北九州空港滑走路の延伸、下北道路の早期実現、IT会社が集積する小倉の新しいビル建設など、成果が出そうなプロジェクトが前に進んでいるというのは非常に良いこと。
- 結婚・子育て、介護で離職した女性が、これまでのキャリアを生かした職に戻れるような情報・手段がもっとあるとよい。